厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）
分担研究報告書

NDB を活用した地域指標の作成に関する研究

研究分担者　杉山雄大　　国立国際医療研究センター　研究所　糖尿病情報センター
医療政策研究室長
研究協力者　渡邊多永子　筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野　助教
研究協力者　伊藤寛祥　　筑波大学システム情報工学研究科　博士課程
研究代表者　田宮菜奈子　筑波大学医学医療系ヘルスサービスリサーチ分野　教授
筑波大学ヘルスサービス開発研究センター　センター長

研究要旨

本研究は、第三者提供を受けたレセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を用いて、地域における高齢者の主な疾患の罹患率を、二次医療圏別、性年齢階級別に記述して、地域指標としての利用可能性を探ることを目的とする。

今年度は受領した NDB データをサーバーにマウントし、奈良県立医科大学公衆衛生学教室より提供を受けたアルゴリズムを用いて、従来 NDB で用いられている ID1、ID2 よりも名寄せ効率を高めた ID0 を利用できるようにした。また、ID0 を用いて試算的に糖尿病の患者数を算出し、先行研究と比較して妥当な値を得た。来年度より、本格的に地域別の高齢者の主な疾患の罹患率を求めていく予定である。

A．研究目的

介護保険事業(支援)計画を策定・実施する上で、地域における高齢者の健康状況を把握することは重要である。

本研究は、第三者提供を受けたレセプト情報・特定健診等情報データベース（NDB）を用いて、地域における高齢者の主な疾患の罹患率を、二次医療圏別、性年齢階級別に記述して、地域指標としての利用可能性を探ることを目的とする。

B．研究方法

高齢者が要介護となる主な原因疾患である脳血管疾患、認知症、骨折、およびそれらのリスク要因である糖尿病患者の NDB データ個票を用いて行なう。まず、二次医療圏別の性年齢階級別疾患罹患率を算出、記述して、地域指標としての利用可能性を探る。

また、上で算出した罹患率をアウトカム、地域の医療体制や社会経済因子をエクスポージャーとする地域単位のエコロジカル・スタディを実施し、その格差要因について検討する。

（倫理面への配慮）

本研究で用いるデータは、筆者らが受領する以前に個人を特定できる情報は削除されており、個人情報は保護されている。また本研究は筑波大学医学医療系倫理委員会の承認（承認日：2018 年 10 月 19 日、承認番号：1324）を得て実施した。

C．研究結果

今年度は受領した NDB データをサーバーにマウントし、奈良県立医科大学公衆衛生学教室より提供を受けたアルゴリズムを用

いて、従来 NDB で用いられている ID1、ID2 よりも名寄せ効率を高めた ID0 を利用できるようにした。これによって、より正確に各疾患の受療人数を算出することが可能となった。左記の作業が正しく行われているかを確かめるため、作成した ID0 を用いて試算的に糖尿病の患者数を算出し、先行研究と比較して妥当な値を得た。

D．考察

NDB を利用した地域における高齢者の主な疾患の罹患率算出に向けて、研究は順調に進捗していると考える。

E．結論

来年度より、本格的に、地域別の高齢者が要介護となる主な原因疾患である脳血管疾患、認知症、骨折、およびそれらのリスク要因である糖尿病の罹患率を求めていく予定である。

F．研究発表

1．論文発表

なし

2．学会発表

なし

（発表誌名巻号・頁・発行年等も記入）

G．知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1．特許取得

なし

2．実用新案登録

なし

3．その他

なし